

活動事例紹介

太郎川水系地区農地等管理保全隊〔川崎町〕

地区概要	取組面積：58.0ha（田58.0ha） 資源量：水路 13.8km パイプライン 1.7km 農道 4.7km ため池 1箇所
令和3年度交付金	農地維持支払交付金 1,740千円 資源向上支払（共同活動）交付金 870千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 -千円
地域の概要	川崎町のほぼ中央に位置する本地域は、太郎川を水源とした水田地帯です。開拓者による畜産業の経営が盛んに行われており、家畜排せつ物を農地に還元する循環型農業により、持続可能な農業の仕組みが成り立っています。 また、地域内には国道457号が横断しており、近隣市町へのアクセスもよくなっています。
取組みの概要	本地域は、二つの行政区の構成員からなり、主に農業者が参加して活動しています。 基本的な活動は、農用地、水路、農道、ため池や電気柵等の維持管理や補修をしており、水路、農道等の側溝の泥上げなどもしています。 また、資源向上支払（共同活動）の取組として、水路の簡易的な補修やマラソンコースにもなっている農道沿いに彼岸花等の植栽活動を行い、本活動の啓発・普及活動として保全隊の看板も作成しています。
取組みによる効果	行政区の各団体や水利組合等の協力のもと本事業に取組むことにより、共同で地域の清掃活動等に取り込もうという意識が高まりました。 また、平成30年度から川崎レイクサイドマラソンが開催され、地域内の農道がコースとなることから、皆で積極的に周辺道路等の清掃や本活動の啓発・普及活動用の看板を作成し、取組みの深化が図られました。
今後の課題	構成員の高齢化や、組織の実務を担う担い手が育たないため、一部の役員に事務負担が集中しています。また、ニホンザルやイノシシなどの鳥獣害にも悩まされています。 今後は、草刈り作業の負担を軽減や作業の安全性確保のため、遠隔操作が可能な草刈機の導入を検討しています。



農道側溝の泥上げ



農道の補修



水路の簡易な補修



植栽活動（水仙）



啓発・普及看板